

第三次行政改革大綱1年延長による変更案(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【I】歳入確保に向けた取組

| | | | | | | |
|--------------------------|--|----------|----------|----------|----------|---------------|
| 取組項目名 | 徴収率向上に向けた取組みの推進（市税・国保税） | | | | | NO, 【I】-①-1 |
| 所管課 | 市民生活部 税務課・ 債権管理課 ・市民課 | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行政改革大綱にも掲げて継続的に取り組んでおり、収納率は改善傾向にある。しかしながら、市税については目標としていた兵庫県内の水準に及ばず、国保税については水準をクリアするも、財源確保と公平性の観点から収納率の向上に向け、従前の取組みの一層の充実と新たな取組みによる強化をしていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①徴収強化月間の取組みと管理職による一斉訪問徴収の実施 ②預金、資産等の財産調査の強化 ③納税環境の整備の推進（クレジット収納やインターネットバンクによる支払等の研究） ④納税交渉の強化と速やかな滞納処分の実施 ⑤任期付職員等の配置による効果的な徴収体制の推進 ⑥特別徴収実施率の向上対策（事業所への戸別訪問、県との連携による共同PR等） ⑦債権回収等事務の民間委託の導入検討 | | | | | |
| 改革の効果 | ・自主財源の確保 ・受益の負担の公平性の確保 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①～⑥の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記⑦の取組み：検討・随時実施 | → | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 現年収納率（市税） ※H26実績：98.0%、 R3目標値99.1% ＝兵庫県水準値 | | | | | |
| | 98.10% | 98.25% | 98.40% | 98.55% | 98.70% | 99.10% |
| | 現年収納率（国保税） ※H26実績：93.8%、93%＝国の方針に基づく市の収納対策プログラム目標値 | | | | | |
| | 93.00%以上 | 93.00%以上 | 93.00%以上 | 93.00%以上 | 93.00%以上 | 95.00% |
| 歳入増加目標額 | 徴収の対象額が変動するため事前に設定できない | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------------|---|--------|--------|--------|--------|---------------|
| 取組項目名 | 徴収率向上に向けた取組みの推進（市税・国保税以外） | | | | | NO, 【I】-①-2 |
| 所管課 | 企画総務部 地域創生課 （総括） | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行政改革大綱でも取り組んできたが、市税以外の収入についても滞納が生じており、負担の公平性の観点、さらにはそれぞれの事業推進のための財源確保の観点から、今後も徴収率の向上に向けた取組みを強化させていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①定期的に徴収状況について点検を行い進捗管理を徹底するとともに、滞納整理検討会議において増加傾向にある債権についての対策を協議し、強化策を検討する。 ②滞納が増加傾向にある債権がある場合は、集中して債権回収に取り組む。 ③債権回収担当課を中心に、滞納整理についてのノウハウの共有、研修の実施等に取り組む。 ④行政サービスの制限については、既に一部の行政サービスについて導入しているが、他の行政サービスについても統一的な考え方を整理し、実施に向けて検討する。 ⑤債権回収業務の一元管理について研究・検討を進める。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・負担の公平性の確保 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①～③の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記④⑤の取組み：検討・随時実施 | → | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 現年徴収率（市税・国保税を除く。） ※H26実績：97.0% | | | | | |
| | 97.10% | 97.15% | 97.20% | 97.25% | 97.30% | 97.35% |
| 歳入増加目標額 | 徴収の対象額が変動するため事前に設定できない | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【I】歳入確保に向けた取組

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-------|-------|----|-----|-------|---------|--|
| 取組項目名 | 使用料・手数料等の見直し | | | | | NO, | 【I】-②-1 | |
| 所管課 | 企画総務部 地域創生課 (総括) | | | | | | | |
| 現状と課題 | 水道や下水道の使用料、ごみ処分の手数料など、日常生活に関係してさまざまな料金を徴収している。第二次行革でもいくつかの使用料・手数料について見直しを行ったが、それぞれの事業を継続していくために必要な経費に対し、適正な金額となっているかどうかを検証し、今後の行政サービスが安定して供給できるよう定期的に料金を見直す機会を確保していく。 | | | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | 類似団体、近傍団体との比較検討を行い、手数料の改定が必要と判断する場合は、公共料金審議会に諮り、条例改正を行う。 ①水道料金、下水道料金…平成25年度に見直しを行い、以後4年を周期に見直しをする。 ②ごみ処分手数料…平成27年度に一般廃棄物処理基本計画の見直しをするなかで検証を行うこととし、その結果を受け、以降の見直し周期を設定する。 ③公共施設の使用料について、受益者負担の原則に基づき、見直し指針を策定し、順次見直しを行う。 ④その他の使用料・手数料等…必要に応じて随時見直しを行う。 | | | | | | | |
| 改革の効果 | ・受益と負担の公平性の確保 | | | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | | |
| | 上記①の取組み：調査等の実施 | 検証・審議 | 新料金実施 | → | 調査等 | 検証・審議 | | |
| | 上記②～④の取組み：検討・随時実施 | → | | | | | → | |
| 目標指標 | - | | | | | | | |
| 上段：指標名 | - | | | | | | | |
| 下段：指標値 | - | - | - | - | - | - | | |
| 歳入増加目標額 | 必ずしも受益者負担額を上げることを目標とした取組みでないため計上しない。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------------------|-------------|-------------|----|-----|---------|
| 取組項目名 | 分担金の見直し | | | | | NO, | 【I】-②-2 |
| 所管課 | 産業部 林業振興課・ 農業振興課 、建設部 建設課・水道管理課 | | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行革大綱でも取り組んできたが、社会経済情勢の変化に適切に対応するため、受益者負担の公平性の確保のため、一定期間(4年周期)での見直し・検討が必要なことから継続して取り組む。 | | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | 分担金について近傍類似団体との比較検討を行い、妥当な金額(率)かどうか検証を行う。原則として以下のスケジュールにより進めるが、一連の災害復旧工事が終了する時期など、見直しのタイミングがあれば前倒しで見直しを実施する。 ①治山事業・治山関連附帯事業・災害復旧事業分担金、②急傾斜地崩壊対策事業分担金、③土地改良関連事業分担金、④水道分担金・下水道事業等分担金・下水道受益者負担金 | | | | | | |
| 改革の効果 | ・受益と負担の公平性の確保 | | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | |
| | 上記①～③：H26見直し内容で運用 | → | 検証 | 検証した額(率)で運用 | → | | |
| | 上記④：H27見直し内容で運用 | 検証※水道料金等の見直し時期に合わせる。 | 検証した額(率)で運用 | → | | | 検証 |
| 目標指標 | - | | | | | | |
| 上段：指標名 | - | | | | | | |
| 下段：指標値 | - | - | - | - | - | - | |
| 歳入増加目標額 | 必ずしも受益者負担額を上げることを目標とした取組みでないため計上しない。 | | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【I】歳入確保に向けた取組

| | | | | | | |
|---------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-------------|
| 取組項目名 | 広告料収入の確保 | | | | | NO, 【I】-③-1 |
| 所管課 | 企画総務部 秘書広報課 | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行革大綱でも取組み、現在、広報しそう及び市ホームページにおける広告主を募集し、応募者による広告を掲載しているが、引続き広告主の募集を広く行うとともに、他の広報メディア、媒体での導入を進めていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①広告募集の方法や広報等における広告掲載手法を工夫し、広報紙及びホームページでの広告掲載を継続・拡充する。 ②市の行政情報、災害情報、市内各地の催しなどを配信している「しそうチャンネル」について広告掲載を検討する。 ③広報誌やHPだけでなく、ネーミングライツなど、市が管理・作成しているもので新たな広告掲載の媒体となるものがないか研究・検討する。 ④広告掲載等について、民間の企業等から提案、募集できる仕組みを研究する。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・自主財源の確保 ・民間活力の活用 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記②～④の取組み：検討・随時実施 | → | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | ホームページにおける広告企業数（H26：2社） | | | | | |
| | 4社 | 5社 | 6社 | 7社 | 8社 | 9社 |
| 歳入増加目標額 (H26年度比) 単位：千円 | 60 | 120 | 180 | 240 | 300 | 360 |

| | | | | | | |
|---------------------------|---|---------|---------|---------|---------|-------------|
| 取組項目名 | ふるさと納税の拡充 | | | | | NO, 【I】-③-2 |
| 所管課 | 企画総務部 地域創生課 | | | | | |
| 現状と課題 | 平成26年度から宍粟市に寄付（ふるさと納税）いただいた方に対して返礼品の贈呈を開始した。自主財源の確保策として有効な制度であり、国も推進の方向性であることから、包括的な民間委託も含めて寄付募集の方法や返礼品目を工夫し、さらなる収入の拡大を図っていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①毎年度、返礼品の見直しを行い、常に魅力のある返礼品となるよう更新を行う。 ②ホームページやふるさと納税の紹介サイト等を活用し、効果的なPRを行う。 ③返礼品の募集やPRについて、事業の包括的な民間委託を検討する。 ④寄付金の使途を特色あるものにしてPRするなど、返礼品以外で寄付を増やす工夫を行う。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・自主財源の確保 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記③④の取組み：検討 | 随時実施 | → | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | ふるさと納税総額（単位：千円） ※H26実績額：134,000千円 | | | | | |
| | 190,000 | 210,000 | 230,000 | 250,000 | 270,000 | 290,000 |
| 歳入増加目標額 (H26年度比) 単位：千円 | 56,000 | 76,000 | 96,000 | 116,000 | 136,000 | 156,000 |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【I】歳入確保に向けた取組

| | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------|-------|-------|-------|-------|--------------|--|
| 取組項目名 | 再生可能エネルギーの利活用 | | | | | NO, | 【I】-③-3 | |
| 所管課 | 市民生活部 環境課、 <u>産業部</u> <u>林業振興課</u> 、 <u>企画総務部</u> <u>財務課</u> | | | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行革大綱においては、森林・木質バイオマス活用によるオフセットクレジットの検討・研究に取り組んできたが、認証を得るための条件や費用負担が大きい一方で、クレジット市場が低価での取引となっている現状がある。国の施策方針や市場の活性化の課題を注視しながらクレジットの販売促進の方策を検討し、また新たな再生可能エネルギーの利活用についても調査研究していく必要がある。 | | | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①引き続きオフセットクレジット制度の動向を注視する中で、実施に向けた調査・研究を進めていく。 ②森林、木質バイオマス活用によるオフセットクレジット以外にも、市内で大きく普及している「太陽光発電」によるオフセットクレジットへの活用も調査研究を行う。 ③その他、宍粟市の自然を活かした再生可能エネルギーの利活用による収入確保について検討する。 | | | | | | | |
| 改革の効果 | ・自主財源の確保 | | | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | | |
| | 上記①の取組み：実施 | —————→ | | | | | → | |
| | 上記②③の取組み：検討・随時実施 | —————→ | | | | | → | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | - | | | | | | | |
| 歳入増加目標額 (H26年度比)単位：千円 | 2,300 | 2,300 | 2,300 | 2,300 | 2,300 | 2,300 | <u>2,300</u> | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------|--------|-------|-------|--------------|---------|---|
| 取組項目名 | 市有財産の有効活用 | | | | | NO, | 【I】-③-4 | |
| 所管課 | 企画総務部 <u>財務課</u> 、 <u>産業部</u> <u>林業振興課</u> 、 <u>建設部</u> <u>建設課</u> | | | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行革大綱でも取組み、市有の未利用地については、順次、売却や貸付を行い、効率的な管理・運営に努めているが、現在の公有地の台帳には、合併以前の古くからの土地など、市有となった経過や現況が不明な土地を含んでいる。今般、公会計の導入にあわせ整備する固定資産台帳の活用により、市有の財産を整理のうえ、活用方針を定め、有効活用を図っていく必要がある。 | | | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①未利用地の貸付、売却の推進 ②市ホームページによるPR及びインターネット公売の実施 ③市有林の売却の推進 ④里道、水路等法定外公共物の払い下げ ⑤固定資産台帳を活用した未利用地の明確化と利活用の方向性の決定 | | | | | | | |
| 改革の効果 | ・自主財源の確保 ・未利用地の明確化と有効活用 | | | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | | |
| | 上記①～④の取組み：実施 | —————→ | | | | | → | |
| | 上記⑤の取組み：台帳整理 | 台帳の活用 | —————→ | | | | | → |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 未利用地の割合(%) | | | | | | | |
| | - | - | 40.6 | 39.9 | 39.6 | <u>39.8</u> | | |
| 歳入増加目標額 | | | | 7,000 | 2,100 | <u>8,400</u> | | |
| | ①による増加額のみ計上。 | | | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案 新旧対照表(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【Ⅱ】歳出抑制に向けた取組

| | | | | | | |
|------------------------------|---|--------|---------|---------|---------|----------------|
| 取組項目名 | 人件費の抑制 | | | | | NO, 【Ⅱ】-④-1 |
| 所管課 | 企画総務部 総務課 | | | | | |
| 現状と課題 | 職員数の削減を主として第二次行革大綱でも人件費の抑制に取り組んできたが、広い市域を有する当市において、今後、大幅な職員数の削減は困難である。しかしながら、労働人口の減少に伴う収入減が見込まれる現状においては、適正な職員数の管理とともに、職員給与、時間外・休日勤務の適正化等により人件費の抑制に取り組む必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①職員給与…人事院勧告を基準として運用し、特殊な要因が発生した場合は、独自の削減等により対応する。また、ラスパイレス指数を100未満としていく。 ②職員定員…行政サービスの維持を原則として、定員適正化計画を策定し、計画的な人事管理を行う。また、早期退職制度のもとでの退職者の募集を行う。 ③時間外、休日勤務…管理職の業務管理を徹底し、適切な時間外勤務命令を行うとともに、部署内でのワークシェアリングにより、超過勤務の偏りを防ぎ、部署内の協力体制の強化を図る。また、ノー残業デー、終礼、一斉退庁等の職場を上げた取組みを励行する。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・人件費の抑制 ・職員の健康管理 ・適正な労務管理 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | <u>R3</u> |
| | 上記①～③の取組み：実施 | —————→ | | | | |
| | | | | | | |
| 目標指標① 上段：指標名 下段：指標値 | 給与費の削減率（H26年度比） | | | | | |
| | ▲1.0% | ▲2.0% | ▲4.9% | ▲5.6% | ▲5.7% | <u>▲5.7%</u> |
| 目標指標② 上段：指標名 下段：指標値 | 総職員数（人） ※総合病院職員を除く。H26：433人 | | | | | |
| | 429 | 429 | 425 | 423 | 423 | <u>423</u> |
| 目標指標③ 上段：指標名 下段：指標値 | 時間外勤務手当額の削減率（H26年度比） | | | | | |
| | ▲1.0% | ▲2.0% | ▲3.0% | ▲4.0% | ▲5.0% | <u>▲6.0%</u> |
| 歳出削減目標額 （H26年度比）単位： 千円 | 35,700 | 73,300 | 177,700 | 203,800 | 205,500 | <u>206,900</u> |
| | ※H26決算見込（特殊経費及び総合病院を除く。）3,633,000千円。共済費、負担金等人件費を含む。 | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案 新旧対照表(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【Ⅱ】歳出抑制に向けた取組

| | | | | | | |
|--------------------------|--|-------|-------|-------|-------|--------------|
| 取組項目名 | 組織・機構の効率化と強化 | | | | | NO, 【Ⅱ】-④-2 |
| 所管課 | 企画総務部 <u>地域創生課</u> ・総務課 | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行革大綱でも取り組んできたが、定員適正化計画により職員数を削減する一方で、女性の活躍推進に取り組むとともに、社会情勢の変化に伴い発生する新たな行政課題や多様化する市民ニーズに対応できる組織・機構とする必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①本庁、市民局、保健センター、生涯学習事務所など、行政組織の見直しを行う。 ②大局的な行政課題が発生した場合にはそれに対応できる組織体制の見直しを柔軟に行う。 ③職員数の減少による行政サービスの低下を防ぐため、ICT（情報通信技術）などを活用した新たなシステムや手法を導入する。 ④女性の活躍により組織に多様な価値観を取り入れ組織能力の向上と強化につなげるため、女性管理職の登用拡大を図る。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・経費の削減 ・市民サービスの維持と向上 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | <u>R3</u> |
| | 上記①～③の取組み：検討・随時実施 | → | | | | |
| | 上記④の取組み：実施 | → | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 女性管理職比率（幼稚園、保育所、病院の専門職場を除く）※H26：5.6% H27：12.2% | | | | | |
| | 13.0% | 13.5% | 14.0% | 14.5% | 15.0% | <u>15.0%</u> |
| 歳出削減目標額 | コストの削減だけを目的とした項目ではないため、目標額は設定しない。 | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------------------|-----|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 人事評価制度の導入と人材育成等への反映 | | | | | NO, 【Ⅱ】-④-3 |
| 所管課 | 企画総務部 総務課 | | | | | |
| 現状と課題 | 平成26年5月の地方公務員法の一部改正により人事評価制度を導入することが義務付けられた。職員の任用、給与、分限その他の人事管理は職員の人事評価等において実証した職員の能力及び業績に応じて行うことになるため、評価基準の明示や評価結果の職員本人への開示などの仕組みを構築し、人事管理の基礎とするとともに、評価結果を研修制度や計画的な人事異動等に反映していく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①評価基準（マニュアル、Q&A）を明示する。 ②制度の導入に際し、職員組合と調整を行う。 ③評価基準の統一と精度の向上のため、評価者訓練研修を行う。 ④職員意識調査（客観的に適正な評価が行われているかの検証）を実施する。 ⑤人事評価制度の活用について人材育成方針に盛り込む。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・職員の意識、意欲の向上 ・職員の能力や業務への適格性の把握、適材適所への人材活用 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | <u>R3</u> |
| | 上記①②③の取組み：実施 | 上記③の取組み：継続実施 | → | | | |
| | | 上記④⑤の取組み：検討・随時実施 | → | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | - | | | | | |
| | - | - | - | - | - | - |
| 歳出削減目標額 | 金額的な目標を設定する項目ではない。 | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案 新旧対照表(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【Ⅱ】歳出抑制に向けた取組

| | | | | | | |
|--------------------------|---|--------|-----|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 職員研修の充実 | | | | | NO, 【Ⅱ】-④-4 |
| 所管課 | 企画総務部 総務課 | | | | | |
| 現状と課題 | 高度化、多様化する住民ニーズに対応しながら住民サービスの向上を図る必要性と、地方分権の一層の進展により、地方公共団体の役割はますます増してきている。第二次行政改革大綱でも取り組んできたが、一人ひとりが公務員である強い使命感と責任感を持ち、過去の慣例や前例にとらわれることなく、常に市民の視線に立って何事にも積極的に挑戦するような地方分権時代に対応できる職員の育成を図っていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①人材育成基本方針に基づいた職員研修の実施 ②広域研修組織（自治大学校、自治研修所、播磨自治研修協議会、全国市町村国際文化研修所等）への参加 ③兵庫県庁、県土木事務所等への派遣 ④目的別市単独職員研修の実施（政策形成、接遇、人権、メンタルヘルスケア等） | | | | | |
| 改革の効果 | ・職員の意識、意欲、資質の向上 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①～④の取組み：実施 | —————→ | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | - | | | | | |
| 歳出削減目標額 | 金額的な目標を設定する項目ではない。 | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------------|--|-----------|-----------------|--------|----|-------------|
| 取組項目名 | 職員提案制度の活用 | | | | | NO, 【Ⅱ】-④-5 |
| 所管課 | 企画総務部 <u>地域創生課</u> | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行政改革大綱においても取り組んできたが、様々な行政課題に総合的かつ柔軟に対応するとともに、職員のスキルアップにもつながるため、職員の有効な意見を施策や行政の仕組みに反映させる取組みを引き続き行っていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①部署の枠組みを超えた新たな視点での事業提案や、業務の効率性・有効性の向上に向けた提案を職員から募集する。 ②職員の企画立案能力を示す機会として、より説得性のある具体的な提案となるよう提案の方法を改良する。 ③優秀な提案をした職員については、現在の表彰制度に加え、人事評価制度（平成29年度開始予定）に反映する仕組みを検討する。 ④リスクマネジメントの取組みのなかで、係ごとに所掌する事務のリスクや課題を整理し、事務改善の取組みを進める。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・職員の意識の向上 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②の取組み：実施 | —————→ | | | | |
| | | ※人事評価制度開始 | 上記③の取組み：検討・検討実施 | —————→ | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 職員提案の件数 | | | | | |
| | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | <u>30</u> |
| 歳出削減目標額 | 金額的な目標を設定する項目ではない。 | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案 新旧対照表(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【Ⅱ】歳出抑制に向けた取組

| | | | | | | |
|--------------------------|---|-----|-----|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 行政評価の活用による事業の推進 | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑤-1 |
| 所管課 | 企画総務部 地域創生課 | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行革大綱でも取り組んできたが、社会情勢の変化や地方分権社会の進展等を踏まえ、市の施策や事務事業について、目的、効率・効果、行政関与の必要性等の検証を行い、真に必要で、かつ効果的な事業の実施を図っていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①市民に対する説明責任や透明性向上の観点から、評価のやり方の改良、また、分かりやすい評価表への改良を継続しながら実施し、公表していく。 ②第2次総合計画にそった施策体系により行政評価を実施する。 ③外部委員の参加拡充による評価手法を検討する。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・財源の効率的な配分 ・説明責任及び透明性の向上 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記③の取組み：検討・試行 | → | 実施 | → | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 行政評価により更なる改善の工夫を試みた施策や事務事業の数 | | | | | |
| | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 歳出削減目標額 | コストの削減だけを目的とした項目ではないため、目標額は設定しない。 | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------------|--|-------------|-----|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 既存事務事業の実施手法等の見直し | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑤-2 |
| 所管課 | 企画総務部 地域創生課 (総括) | | | | | |
| 現状と課題 | 現在実施している様々な事務や事業において、社会情勢の変化やコストの問題等を背景に実施にあたって課題が生じているものがあり、関係機関等との調整を行いながら実施の手法や事務事業のあり方について見直しを行っていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①確定申告受付会場の集約…現在、41地区の会場、本庁、3市民局で申告の受付を実施しているが、職員数の減少により対応職員の確保、会場設営等への対応が課題となっていることから、地域住民への説明をしながら受付会場の集約を図る。 ②イベント等の整理…第二次行革大綱の取組みで整理するとしてイベント（i 最上山もみじ祭り、ii 山崎納涼夏祭り、iii はが祭り、iv 音水湖力又ーまつり、v 妙見夏祭り）について、イベントの趣旨や実情を踏まえ、引き続き市の関与や補助のあり方等、実施手法を検討していく。 ③事務事業の実施に係る課題が生じた場合は、行政改革本部会議に諮り方向性を決定したうえで目標年限を定めて解決に取り組む。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・業務の効率化 ・経費の削減 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①の取組み：説明会実施 | H28年分申告より実施 | → | | | |
| | 上記②③の取組み：検討・随時実施 | → | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | - | | | | | |
| | - | - | - | - | - | - |
| 歳出削減目標額 | コストの削減だけを目的とした項目ではないため、目標額は設定しない。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|-----|-------|---------------|---------|--------------|---------|--|
| 取組項目名 | 民間活力の積極的な活用 | | | | | NO, | 【Ⅱ】-⑤-3 | |
| 所管課 | 企画総務部 <u>地域創生課</u> (総括) | | | | | | | |
| 現状と課題 | 民間企業やNPO法人などに委ねることができる業務については、「コスト」と「サービスの質」の比較検討を行ったうえで委託を行うなど、民間活力の積極的な活用を図り、効率的・効果的に業務を推進していく必要がある。 | | | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①行政評価の実施時や予算編成過程において民間活用の可能性を検討する。 ②PPPの手法などを含めた民間活用の指針を策定し、民間活用について可能性があるかと判断した場合は、推進計画の項目に掲げ、検討・実施を行う。 ③市直営ごみ収集体制の変動にあわせ、ごみ収集業務の民間委託を導入する。 ④現在、外部委託している水道施設運転管理業務委託に加えて、市の職員が行っている水道料金の賦課徴収業務、窓口業務、閉開栓業務及び水道メーター検針業務等の包括的な外部委託を導入する。 ⑤指定管理施設の経営検証(2年毎)を行うとともに、次期更新時期(平成33年度～)に向け、公募の可能性について指定管理者の意向も確認しながら検討を行う。また、未導入施設について導入検討を行う。 | | | | | | | |
| 改革の効果 | ・市民サービスの維持、向上 ・民間活力、手法の導入による経営改善 ・経費の削減 | | | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | | |
| | 上記①②の取組み：実施 | → | | | | | → | |
| | 上記③の取組み：検討 | → | 実施 | 検討・随時実施 | → | | → | |
| | 上記④の取組み：検討・調整 | → | | 入札方法等の検討、入札実施 | 実施 | → | | |
| | 上記⑤の取組み：経営検証、新たな導入の検討 | → | | 公募の可能性の検討 | 指定管理者選定 | → | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 非公募指定管理施設の公募指定管理移行数 | | | | | | | |
| | - | - | - | - | +2 | <u>+2</u> | | |
| 歳出削減目標額 H26年度比 単位：千円 | - | - | 1,700 | 2,700 | 2,700 | <u>3,700</u> | | |
| | ※③、④、 <u>⑤</u> による削減額を計上。(③：1,700千円、④：1,000千円、 <u>⑤</u> ：1,000千円) | | | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案 新旧対照表(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【Ⅱ】歳出抑制に向けた取組

| | | | | | | |
|-------------|---|-------|-----|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 情報システムの最適化 | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑤-4 |
| 所管課 | 企画総務部 秘書広報課 | | | | | |
| 現状と課題 | 市民サービスの向上と事務の効率化を図る上で情報システムは欠かせないものとなっているが、情報システムサーバー機等のハードウェアは一定期間経過後に運用サポートが終了するため、情報システムそのものの利用継続とあわせてハードウェア更新対応の検討が必要となる。また、情報システムを取り巻く環境は、ICT技術の進展とともに日々変化するため、最小の資源で最大の効果をもたらすよう、国県の政策動向や最新の技術を視野に入れつつ、安定稼働、職員負担の軽減、コスト削減につながる最良のシステム導入を行っていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①業務で使用する情報システムの最適化の推進 ②市単独クラウドの運用から自治体クラウドへの切替を視野に入れ、連携中枢都市圏構想等による他市町との連携のなかで協議を進める。 ③マイナンバー制度導入：国の機関間の情報連携開始（平成29年1月）、地方公共団体間の情報連携開始（平成29年7月） | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記③の取組み：検討・調整 | 導入・活用 | → | | | |
| 改革の効果 | ・市民サービスの向上と事務の効率化 ・コスト削減 | | | | | |
| 目標指標 | - | | | | | |
| 上段：指標名 | - | - | - | - | - | - |
| 下段：指標値 | - | - | - | - | - | - |
| 歳出削減目標額 | コスト削減を目的としたものであるが事前に算出できるものでないため計上しない。 | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|--|---------------------|-----------------|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 新地方公会計の積極的な活用 | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑤-5 |
| 所管課 | 企画総務部 <u>財務課、地域創生課</u> | | | | | |
| 現状と課題 | 現行の財務書類は総務省方式改訂モデルにより決算統計データを活用して作成しており、事業別あるいは施設別の行政コスト計算書を作成することが難しいため、新地方公会計システムに移行する必要がある。移行にあたり、従前は固定資産台帳の整備が前提とされていなかったため、公共施設等マネジメントへの活用が困難という課題があり、固定資産台帳を整備する必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①全国一律の統一的な基準により財務書類を作成し、自治体間で比較ができるようにする。 ②固定資産台帳を整備し、資産公開の分かりやすい資料とする。 ③行政評価実施時、また施設使用料検討や予算編成過程において、事業別・施設別の行政コスト計算書を活用した評価等を図る。 ④老朽施設の更新における優先度や平年度化を図る。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・分かりやすい財務状況資料や資産の公開 ・行政評価、老朽施設更新、受益者負担適正化、予算編成への活用 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①の取組み：研究・検討 | 上記①の取組み：実施（H28決算より） | 上記③の取組み：検討・随時実施 | → | | |
| | 上記②の取組み：実施 | → | 上記④の取組み：検討・随時実施 | → | | |
| 目標指標 | - | | | | | |
| 上段：指標名 | - | - | - | - | - | - |
| 下段：指標値 | - | - | - | - | - | - |
| 歳出削減目標額 | コスト削減を目的としたものであるが事前に算出できるものでないため計上しない。 | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案 新旧対照表(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【Ⅱ】歳出抑制に向けた取組

| | | | | | | |
|-------------|--|-----|-----|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 事務の共同化の推進 | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑤-6 |
| 所管課 | 企画総務部 地域創生課 (総括) | | | | | |
| 現状と課題 | 平成27年4月に播磨圏域8市8町(姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町)が連携中枢都市圏形成に係る連携協約を締結した。今後、協約に基づくさまざまな分野において連携し、またその他の分野においても事務効率化をめざし、事務の共同化を推進する必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | <ul style="list-style-type: none"> 播磨圏域市町と連携し、政策分野ごとに調整のうえ、共同での事務の実施や施設の共同利用などが可能な場合は、積極的に共同実施、共同利用に取り組む。 | | | | | |
| 改革の効果 | <ul style="list-style-type: none"> 広域な連携による事務事業の効率化 効率的な事務の推進 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記の取組み：検討・随時実施  | | | | | |
| 目標指標 | - | | | | | |
| 上段：指標名 | - | | | | | |
| 下段：指標値 | - | - | - | - | - | - |
| 歳出削減目標額 | コスト削減を目的としたものであるが事前に算出できるものでないため計上しない。 | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------------------|--|--------|--------|--------|--------|---------------|
| 取組項目名 | 繰上償還の推進 | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑥-1 |
| 所管課 | 企画総務部 財務課 | | | | | |
| 現状と課題 | 本市は人口に対して広い市域を有するため、水道や下水道事業等、公共サービスを提供するためのコストは大きくなり、事業の実施には起債に頼らざるを得ない現状がある。ただ、実質公債費比率は、起債を発行する際に県の許可が必要になる18%の基準は下回っているものの、類似団体と比較して高く(悪く)、繰上償還の積極的な実施により、公債費の縮減に取り組む必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①起債にあたっては、償還(返済)額とのバランスを考慮した起債(借入)額とする。 ②繰上償還を積極的に実施する。 | | | | | |
| 改革の効果 | <ul style="list-style-type: none"> 財政の健全化 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②の取組み：実施  | | | | | |
| 目標指標 | 実質公債費比率 ※H25：16.6% | | | | | |
| 上段：指標名 | 16.0% | | | | | |
| 下段：指標値 | 16.0% | 15.9% | 15.8% | 15.7% | 15.6% | 15.5% |
| 歳出削減目標額 (H26年度比) 単位：千円 | 19,000 | 37,000 | 54,000 | 70,000 | 84,000 | 84,000 |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案 新旧対照表(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【Ⅱ】歳出抑制に向けた取組

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-----|-----|----|----|-----|---------|--|
| 取組項目名 | 扶助費の見直し | | | | | NO, | 【Ⅱ】-⑦-1 | |
| 所管課 | 健康福祉部 高年福祉課・福祉相談課・障害福祉課・保健福祉課 ・社会福祉課、市民生活部 市民課 | | | | | | | |
| 現状と課題 | 高齢化等により扶助費は今後増加傾向にあるが、高齢者が介護等が必要になっても住みなれた地域で生活できるようにするための地域包括ケアなど、地域に暮らす住民が主体的に助け合い、支え合う「共助」の考え方に軸をおいた仕組みを構築し、また、市独自基準の事業等については、事業効果の検証や他市町の水準と比較する中で見直しを行う必要がある。 | | | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①第二期粟市地域福祉計画に基づき、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、行政、住民、事業者、ボランティア団体等が連携し、自助・共助・公助による地域における支え合いの仕組みづくりを進める。 ②地域包括ケアによる新たな仕組みの構築に向け、市民・地域・行政・介護サービス事業者・医療機関等が一体となったネットワークづくりを進める。 ③行政評価や予算査定の場合において、事業効果の検証、他市町の水準との比較を行い、見直しを実施する。 | | | | | | | |
| 改革の効果 | ・持続可能な仕組みの構築 ・歳出の抑制 | | | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | | |
| | 上記①②の取組み：随時実施 | → | | | | | → | |
| | 上記③の取組み：検証⇄随時実施 | → | | | | | → | |
| 目標指標 | - | | | | | | | |
| 上段：指標名 | - | | | | | | | |
| 下段：指標値 | - | - | - | - | - | - | | |
| 歳出削減目標額 | コストの削減だけを目的とした項目ではないため、目標額は設定しない。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|------|-----|-------------|-------|-------|---------|
| 取組項目名 | 公共施設等総合管理計画による最適化の推進 | | | | | NO, | 【Ⅱ】-⑧-1 |
| 所管課 | 企画総務部 地域創生課 （総括） | | | | | | |
| 現状と課題 | 今後、老朽化により大規模改修や建替えを必要とする施設が数多くあるが、人口が減少するなかで全ての施設を現状のまま存続することは困難なため、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって更新・転用・統廃合・長寿命化を進めていく必要がある。 | | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | 公共施設等総合管理計画（平成27年度策定）に基づき公共施設等の最適化を推進する。 ①市民局管内施設の集約…3市民局管内のそれぞれの市民局庁舎を中心に、生涯学習施設等を集約していく。 ②給食センター…山崎、一宮波賀、千種の3つの給食センターにつき、児童・生徒数の減少や学校規模適正化による学校数の減少に伴い、機能集積を進める。 ③下水道施設…平成30年度までに処理施設全体の統合計画を策定する。統合が困難な施設については、国等の補助金を活用し、計画的に長寿命化を推進する。 | | | | | | |
| 改革の効果 | ・財政負担の軽減及び平準化 ・公共施設の最適な配置 | | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | |
| | 上記①の取組み：地域との協議、設計 | 随時実施 | → | | | | |
| | 上記②の取組み：検討・随時実施 | → | | | | | → |
| | 上記③の取組み：統合計画の策定、長寿命化の推進 | → | | 統合及び長寿命化の推進 | → | | |
| 目標指標 | - | | | | | | |
| 上段：指標名 | - | | | | | | |
| 下段：指標値 | - | - | - | - | - | - | |
| 歳出削減目標額 | | | | - | 5,100 | 6,100 | |
| | ※①による削減額を計上。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------------|--|--------|--------|--------|--------|---------------|
| 取組項目名 | 建設事業費の総枠の抑制 | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑧-2 |
| 所管課 | 企画総務部 財務課 | | | | | |
| 現状と課題 | 道路や橋梁、上下水道施設などのインフラ整備については、人口減少社会を見据え、「新設」から「修繕・長寿命化」にシフトすることにより抑制していくことを基本として、一定の総枠の範囲で事業を進めていく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①建設事業費の総枠の設定(学校・幼保一元化施設整備を除く。) ②総枠の範囲内での事業の実施 ③合併特例事業債の有効配分 ④建設事業費の一般財源ベースでの削減 | | | | | |
| 改革の効果 | ・財政の健全化 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①～④の取組み：実施 | → | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 建設事業費削減率(一般財源ベース、H27年度比) | | | | | |
| | ▲1.0% | ▲2.0% | ▲3.0% | ▲4.0% | ▲5.0% | ▲6.0% |
| 歳出削減目標額 (H27年度比)単位：千円 | 6,000 | 12,000 | 18,000 | 24,000 | 30,000 | 36,000 |

| | | | | | | |
|--------------------------|---|-----------------|-----|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 補助金の整理合理化 | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑨-1 |
| 所管課 | 企画総務部 地域創生課、財務課 | | | | | |
| 現状と課題 | 第二次行政改革大綱でも取組み、補助金の整理合理化を進めてきたが、終期が設定されていない補助金など運用基準どおりになっていないものがある。スクラップアンドビルドを原則とし、行政コストの縮減を図りつつ、補助金の効果的な活用へ向け取組む必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①終期の設定によるスクラップアンドビルドを原則とし、補助金の交付に係る運用基準の見直しを行う。 ②新たな運用基準により、既存の補助金の精査を行う。目的を達成した、あるいは効果が薄いものについては交付中止を検討する。 ③行政評価や予算査定の際において、類似した補助金の統合など、補助メニューの精査を行う。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・受益と負担の適正化 ・経費の削減 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①の取組み：実施 | 上記②の取組み：検証⇄随時実施 | → | | | |
| | 上記③の取組み：実施 | → | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | - | | | | | |
| | - | - | - | - | - | - |
| 歳出削減目標額 | 補助金総枠の増大は避けるべきであるが、一律に削減を目標とすることも適当でないため目標効果額は設定しない。 | | | | | |

第三次行政改革大綱1年延長による変更案 新旧対照表(推進計画部分、変更箇所は朱書き下線部分)

【Ⅱ】歳出抑制に向けた取組

| | | | | | | |
|--------------------------|---|-----|-----|----|--------|---------------|
| 取組項目名 | 繰出金等の縮減 | | | | | NO, 【Ⅱ】-⑩-1 |
| 所管課 | 企画総務部 <u>地域創生課</u> (総括)・建設部 水道管理課・穴栗総合病院 <u>産業部 まち・にぎわい課</u> | | | | | |
| 現状と課題 | 病院事業や水道・下水道事業などの収益事業は、経営状況が良くなれば、市が一般会計から支出する繰出金が減り、市の財政負担は軽くなるため、それぞれの事業において経営改善に向け取り組む必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①総合病院…県の地方医療構想(H27策定予定)を踏まえ、H28年度までに総合病院改革プランを策定し、目標指標を設定することにより、経営改善に取り組む。 ②下水道事業…中長期的視野に基づく事業経営の健全化や経営基盤の強化を図るため、令和2年度までに地方公営企業法を適用する。 ③第三セクター…毎年度、経営状況を確認していくとともに、類似の事業を行う事業者の統合に取り組む。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・経営の健全化 ・歳出の削減(繰出金の抑制) | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | <u>R3</u> |
| | 上記①③の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記②の取組み：検討、実施 | → | | | | |
| 目標指標 上段：指標名 下段：指標値 | 医業収支比率 ※医業活動の収益性を示す。H25実績：86.7% ※病院改革プランを策定した段階で目標指標を設定する。 | | | | | |
| 歳出削減目標額 | | | | 0 | 35,000 | <u>70,000</u> |
| | ※②による削減額を計上。①、③については、経営改善により一般会計からの繰出金が抑制されれば市の歳出削減につながるが、事前に算出できるものではないため計上しない。 | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----|-----|----|-----|-------------|
| 取組項目名 | 市政への市民参画の推進 | | | | | NO, 【Ⅲ】-⑪-1 |
| 所管課 | まちづくり推進部 市民協働課 | | | | | |
| 現状と課題 | 多様化する市民ニーズを把握するため、また「選択と集中」による施策の展開を図っていくためには、施策や方針などを決めていく過程の場において市民参画を推進していく必要があり、公募委員の比率を高める取組みを進めるとともに、参画しやすい環境づくりに取り組む必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①審議会等における公募委員の比率向上の取組みについて周知徹底を図る。 ②審議会等委員の改選時期を把握し、目標達成に向け計画的に公募委員の登用を進める。 ③市民が参画しやすくなるよう、会議の開催時間や曜日の柔軟な対応を行う。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・市民の意向の的確な把握と市政への反映 ・開かれた市政の展開 ・多様化、複雑化する市民ニーズにきめ細かく対応した質の高いサービスの提供 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記③の取組み：検討・随時実施 | → | | | | |
| 目標指標 | 公募委員の比率 ※H26実績：3.1% (穴栗市附属機関等の設置及び運営に関する要綱第5条第4項に規定する場合を除く。) | | | | | |
| 上段：指標名 | 5% | - | 10% | - | 20% | 20% |
| 下段：指標値 | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|-----|-----|-----|-----|-------------|
| 取組項目名 | 審議会等への女性参画の推進 | | | | | NO, 【Ⅲ】-⑪-2 |
| 所管課 | まちづくり推進部 人権推進課・市民協働課 | | | | | |
| 現状と課題 | 近年、男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直しが進んでいるが、女性の政策や方針決定の場への参画はまだまだ進んでいない。男女共同参画社会の実現には、政策や方針決定過程の場への女性の更なる参画を推進する必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①審議会等委員への女性の積極的な登用促進の取組みについて周知徹底を図る。 ②審議会等委員の改選時期を把握し、目標達成に向け計画的に女性委員の登用を進める。 ③女性の参画を図るために、会議の開催時間や曜日の柔軟な対応を行う。 ④自治会役員等への女性の登用を推進する。 | | | | | |
| 改革の効果 | ・多角的な政策・方針決定の推進 ・男女のあらゆる分野への主体的参画の推進 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記③④の取組み：検討・随時実施 | → | | | | |
| 目標指標 | 審議会等における女性委員の割合 ※H26実績：30.6% | | | | | |
| 上段：指標名 | 31% | 32% | 33% | 34% | 35% | 36.3% |
| 下段：指標値 | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|---|--------|-----|----|-----|-------------|
| 取組項目名 | 情報提供機能の充実 | | | | | NO, 【Ⅲ】-⑫-1 |
| 所管課 | 企画総務部 秘書広報課 | | | | | |
| 現状と課題 | 市民の参画と協働のもと、まちづくりを進めるためには、市から適切な情報発信と徹底した情報公開を行い、行政の公正性、透明性を向上させ、市民の市政に対する関心を高めることが重要であるが、現実はお知らせ型広報になりがちであり、市民の関心につながる効果的な広報に取り組んでいく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①穴粟市コミュニケーション戦略プランの推進 ②広報の専門家による広報メディアの検証及び改良 ③市民参画による広報広聴推進委員会の設置 ④職員の広報広聴研修の実施 | | | | | |
| 改革の効果 | ・市民の市政への理解の向上 ・市政運営の公正性と透明性の向上 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②③④の取組み：実施 | —————→ | | | | |
| 目標指標 | アンケートによる広報しそこの読者率 ※H26実績：84% | | | | | |
| 上段：指標名 | 86% | - | 88% | - | 90% | 90% |
| 下段：指標値 | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|--|--------|-----|----|----|-------------|
| 取組項目名 | 市民ニーズや地域課題の的確な把握と反映 | | | | | NO, 【Ⅲ】-⑫-2 |
| 所管課 | 企画総務部 秘書広報課 | | | | | |
| 現状と課題 | 多様化、複雑化する市民ニーズや地域の課題に対応したまちづくりを進めていくためには、市民意見を把握する機会を確保し、的確にその意見を市政に反映していくことが重要であり、これまでの取組みの強化と新たな仕組みを構築していく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①穴粟市コミュニケーション戦略プランの推進 ②市民参画による広報広聴推進委員会の設置 ③テーマ設定による懇談会の実施 ④地域コミュニケーションマニュアルの策定 ⑤職員の広報広聴研修の実施 | | | | | |
| 改革の効果 | ・市民の意向の的確な把握と市政への反映 ・開かれた市政の展開 ・多様化、複雑化する市民ニーズにきめ細かく対応した質の高いサービスの提供 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②③⑤の取組み：実施 | —————→ | | | | |
| | 上記④の取組み：検討・随時実施 | —————→ | | | | |
| 目標指標 | - | | | | | |
| 上段：指標名 | - | - | - | - | - | - |
| 下段：指標値 | | | | | | |

| | | | | | | |
|-------------|--|-----|------|------|------|-------------|
| 取組項目名 | しろう光ネット（光ケーブル網）の活用 | | | | | NO, 【Ⅲ】-⑫-3 |
| 所管課 | 企画総務部 秘書広報課 | | | | | |
| 現状と課題 | しろう光ネットの整備により、市の防災行政情報伝達手段の一元化、テレビ難視聴区域の地上デジタル化、情報格差の解消（ブロードバンド、携帯電話）等に取り組む、また、市ホームページの充実、河川カメラ映像・議会中継の配信なども進めてきた。引き続き音声告知システムの加入を推進するとともに、人口減少対策、地域活性化対策等の一環としてしろう光ネットの新たな活用方策を検討していく必要がある。 | | | | | |
| 課題解決への具体的取組 | ①多様な防災・行政情報伝達の実施 ②放送通信サービスの安定性の確保 ③防災設備・観光施設等における情報通信環境の向上 ④各施策におけるしろう光ネットの活用 | | | | | |
| 改革の効果 | ・行政サービスの効率化 ・民間活力導入の推進 | | | | | |
| スケジュール | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| | 上記①②③の取組み：実施 | → | | | | |
| | 上記④の取組み：検証・随時実施 | → | | | | |
| 目標指標 | 音声告知システム設置世帯の割合（％） | | | | | |
| 上段：指標名 | | | | | | |
| 下段：指標値 | — | — | 97.2 | 97.4 | 97.6 | <u>97.8</u> |